

## 平成 22 年度 関西支部セミナー・講習会報告

関西支部の恒例行事であるセミナー・講習会（今年度より見学会から改名）が平成 22 年 4 月 17 日(土)に行われました。今回は環境温暖化の対策の一環として注目をされている原子力エネルギーとして、福井県敦賀市にある敦賀原子力発電所に見学を行いました。

当日は快晴であり、総勢 29 名の参加者がありました。集合場所の大阪駅を出発し、敦賀原子力発電所への道中のバスの中では、神戸大学海事科学部の井川准教授により「原子力と船」と題した講演が行われました。講演内容は地球温暖化の最新事情から原子力船「むつ」を中心とした世界中の原子力船、さらに現状の原子力船の開発状況に関する解説がありました。さらに講演後には参加者から積極的な質問が多数あり、原子力に対する関心の高さが窺えました。

次に、バスは原子力発電所の見学の前に、発電所に併設され、原子力発電所に関する解説を行っている敦賀原子力館に到着。同施設内において、模型等を用いた原子力発電所の仕組みや建設予定中のものを含めた敦賀原子力発電所そのものについて解説を受けました。

その後、いよいよメインイベントの原子力発電所の見学として、見学前に参加者全員の身分証明を行うと共に、発電所側が用意したバスに乗り、発電所の入口に併設された保安施設にて参加者全員のボディチェックを受けるという厳戒体制の中、原子力発電所に入構しました。ちなみに敦賀原子力発電所は日本で唯一の沸騰水型原子炉（BWR）及び加圧水型原子炉(PWR)という異なるタイプの原子炉が併設されている発電所であり、バスに乗りながらの見学でしたが、両タイプの原子炉を垣間見ることができ、非常に貴重な体験ができました。

発電所の外周見学後は再び、敦賀原子力館に戻り、今度は「原発の建設から延長及び廃炉について」と題して、敦賀原子力館の山岸副館長より、原子力発電所の建設から延長、廃炉に至る経過について解説を頂きました。

原子力発電所は我々の生活を支える重要な施設である反面、治安上の問題からも普段は中々見ることも入ることもできない施設です。今回、そのような施設を見学することができ、非常に有意義な一日であったものと思います。

（記 会務委員 中田 昌宏）

